

## 持続可能性 DG 委員名簿

2017年9月29日現在

## 【委員】

枝廣 淳子	東京都市大学環境学部 教授 幸せ経済社会研究所 所長、環境ジャーナリスト
河合 弘樹	日本労働組合総連合会総合企画局企画局 部長
小西 雅子	(公財)世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)自然保護室 室次長 日本気象予報士会 副会長
崎田 裕子	ジャーナリスト・環境カウンセラー NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長
杉山 涼子	株式会社杉山・栗原環境事務所 取締役
高 巖	麗澤大学大学院経済研究科 教授
竹本 和彦	国連大学サステイナビリティ高等研究所 所長
土井 香苗	ヒューマン・ライツ・ウォッチ アジア局 日本代表
中村 由行	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 教授
藤野 純一	(公財)地球環境戦略研究機関 上席研究員 国立研究開発法人国立環境研究所 主任研究員
細田 衛士	慶應義塾大学経済学部 教授
森口 祐一	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授
横張 真	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授
吉田 正人	筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授

(敬称略、五十音順)

## 【関係行政機関委員】

勝野 美江	内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局 参事官
松本 啓朗	環境省大臣官房 総合政策課長
砂田 覚	東京都オリンピック・パラリンピック準備局 施設担当部長
小原 昌	東京都環境局 環境政策担当部長

(敬称略)



第7回持続可能性D G資料  
持続可能性に配慮した運営計画第二版における  
各主要テーマの目標等について

2017年9月29日  
大会準備運営第一局 持続可能性部

# 本日の報告・審議事項

## ○報告事項

- 低炭素WG、資源管理WGでの検討状況報告

## ○審議事項

- 各主要テーマの大目標（ゴール）について、何を掲げるべきか
- ゴールに向けどのような個別目標を定めるか
- 計画全体の構成
- 目標達成に向け実施すべき施策

# 1. 低炭素WG・資源管理WGでの検討状況報告

## ○目標設定のフレーム

持続可能性に配慮した運営計画 第二版 資源管理における目標設定のフレームとして、以下の整理を行う(SDGsのフレームを準用)

i. ゴール	各分野における全体的な戦略の方向性
ii. 目標	各分野の各項目におけるターゲット
iii. 指標	目標の進捗・達成状況を管理するための測定方法や数値など(インディケータ)

# (1) 低炭素WG

## ① 検討状況

2017年度開催	討議事項
7月20日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 気候変動に関する全体スキーム</li><li>・ カーボンフットプリントの全体像</li><li>・ 気候変動に関する目標と対策</li></ul>
9月12日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ オフセットに関する方向性について</li></ul>

## ② 気候変動分野の大目標（ゴール）について

東京大会の大目標（ゴール）

### 「Zero Carbon」

（考え方）パリ協定を受け世界が脱炭素社会を目指す中、パリ協定がスタートする2020年に開催される東京大会において、その方向性・戦略を示し、脱炭素化の礎を築く。

方向性に合わせ、WG名称を「脱炭素WG」に変更する

### ③ 気候変動分野の目標設定に向けて

- 1) カーボンマネジメント体制を構築し、排出量の管理・削減活動の推進を進める
- 2) 様々な排出削減活動を推進する
- 3) 削減活動を行っても排出されるCO2に対し、オフセットの活動を行う

上記の結果を積みあげていくことにより  
“ゼロ カーボン”というゴールを目指す

## (2) 資源管理WG

### ① 検討状況

2017年度開催	討議事項
5月8日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 資源管理の進め方と目標設定の考え方について</li><li>・ 飲食提供に係る廃棄物の課題 (食器リユース/リサイクル・食品ロス) について</li></ul>
5月22日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 飲食提供に係る廃棄物の課題 (食器リユース/リサイクル・食品ロス) について</li></ul>
8月8日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 資源管理に関する全体スキームについて</li><li>・ 資源管理分野の目標設定のあり方について</li><li>・ 「大規模イベントにおけるごみ分別ラベル作成ガイダンス」の策定について(環境省より)</li></ul>
9月5日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 資源管理分野の目標設定のあり方について</li></ul>



### ③ 資源管理分野の大目標（ゴール）について

東京大会の大目標（ゴール）

## 「Zero Wasting」

- ・「持続可能な消費と生産」（SDGs 目標12）、循環経済の目指すところをふまえつつ、立候補ファイルで掲げた、「廃棄物を徹底的になくし、あらゆる物を資源としていく」という方針を継承。
- ・大会に関わる資源を活かしきるべく、循環型の資源の利用、効率的な使用、使用後の有効活用を進める
- ・脱炭素社会・自然と共生する社会につなげ、持続可能な社会への変革の推進力となる取り組みを進めていく

## ④ 資源管理分野の目標の枠組み(案)について

「Zero Wasting」というゴールに向け、東京大会で行う取り組みのあらゆる分野をカバーする目標を設定する必要がある。

そこで、3Rの考え方を基本に目標を検討し、東京大会が目指すゴールを体現するための目標群を設定し、目標群相互のつながりも整理した次表を作成(案)

	目標の目的・視点		目標候補	
	インプット側	アウトプット側	インプット側 (例)	アウトプット側 (例)
リデュース	リデュース、資源の無駄の最少化		1. 食品ロス削減 (食品廃棄物の発生抑制) 2. 容器包装削減	
リユース	後利用に配慮した調達 リユース品の調達	使用済み物品等の リユース	3. 調達物品の再使用(リース等含む)・再生利用 ・既存施設活用	4. 運営時廃棄物の再使用・再生利用 5. 食品廃棄物の再生利用 6. 建設廃棄物の再生利用
リサイクル	リサイクルしやすい 製品の調達 リサイクル品の調達	使用済み物品等の リサイクル	7. 再生材の利用 8. 入賞メダルへの再生 金属利用	
地球環境保全の 側面	持続可能な資源管理	環境中への排出の 最少化	9. (持続可能な)再生可 能(リニューアブル) 資源活用(木材等)	10. 埋立処分量の削減

## 2. 各主要テーマの大目標（ゴール）等

### ＜各主要テーマのゴールと個別目標(候補)＞

各主要テーマ	大目標（ゴール）	ゴールに向けた主な個別目標
気候変動	Zero Carbon 脱炭素化社会の構築に向けて、戦略的な会場見直し等による排出回避、再エネ・省エネ活用による排出削減、相殺により、ゼロカーボンの姿を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO<sub>2</sub>マネジメントの実施</li> <li>・排出回避によるCO<sub>2</sub>削減量</li> <li>・排出削減策（再エネ導入・省エネ活用）によるCO<sub>2</sub>削減量</li> <li>・対策を講じても排出されるCO<sub>2</sub>の相殺</li> </ul>
資源管理	Zero Wasting 物品等の調達、使用、廃棄の各段階で資源を効率的に活用することにより、ムリ・ムダ・ムラをなくし、持続可能な消費と生産の実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存施設活用</li> <li>・再生材活用量（木材、再生材、入賞メダル）</li> <li>・発生抑制量（食品ロス・容器包装削減）</li> <li>・再使用・再生利用量（調達物品・運営時廃棄物・建設廃棄物）</li> <li>・再生利用量（食品廃棄物）</li> <li>・埋立処分の回避量（直接埋立）</li> </ul>
大気・水・緑・生物多様性等	既存の施設や緑地・水辺等の空間の最大限の活用や、大気・水・土壌環境への環境負荷の最小化、生態系に配慮した緑化の推進等により、快適さとレジリエンスを向上させる都市システムの創出を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の循環利用等による環境負荷の最小化</li> <li>・会場周辺における在来種に配慮した緑地整備</li> <li>・調達における生物多様性等への配慮</li> </ul>
人権・労働・公正な事業慣行等	人種や国籍、性別、性的指向、障がいの有無等による差別等がなく、児童労働や強制労働、過重労働を間接的にも助長しない大会、かつ公正な事業慣行が確保された大会を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権や労働等に配慮した調達の実施。</li> <li>・公正な事業慣行の確保に向けた研修等諸施策の適切な実施</li> </ul>
参画・協働・情報発信	持続可能性への配慮の最大化に向け、大会関係者のみならず広く国民及び事業者、自治体等の参加・協働による取組の広範な実施と情報発信を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会関係者のみならず広く国民及び事業者、自治体等の参加による取組の実施</li> <li>・国内外への適切かつ十分な情報発信</li> </ul>

## <参考 1 各主要テーマのゴールの再整理（キーワード化）>

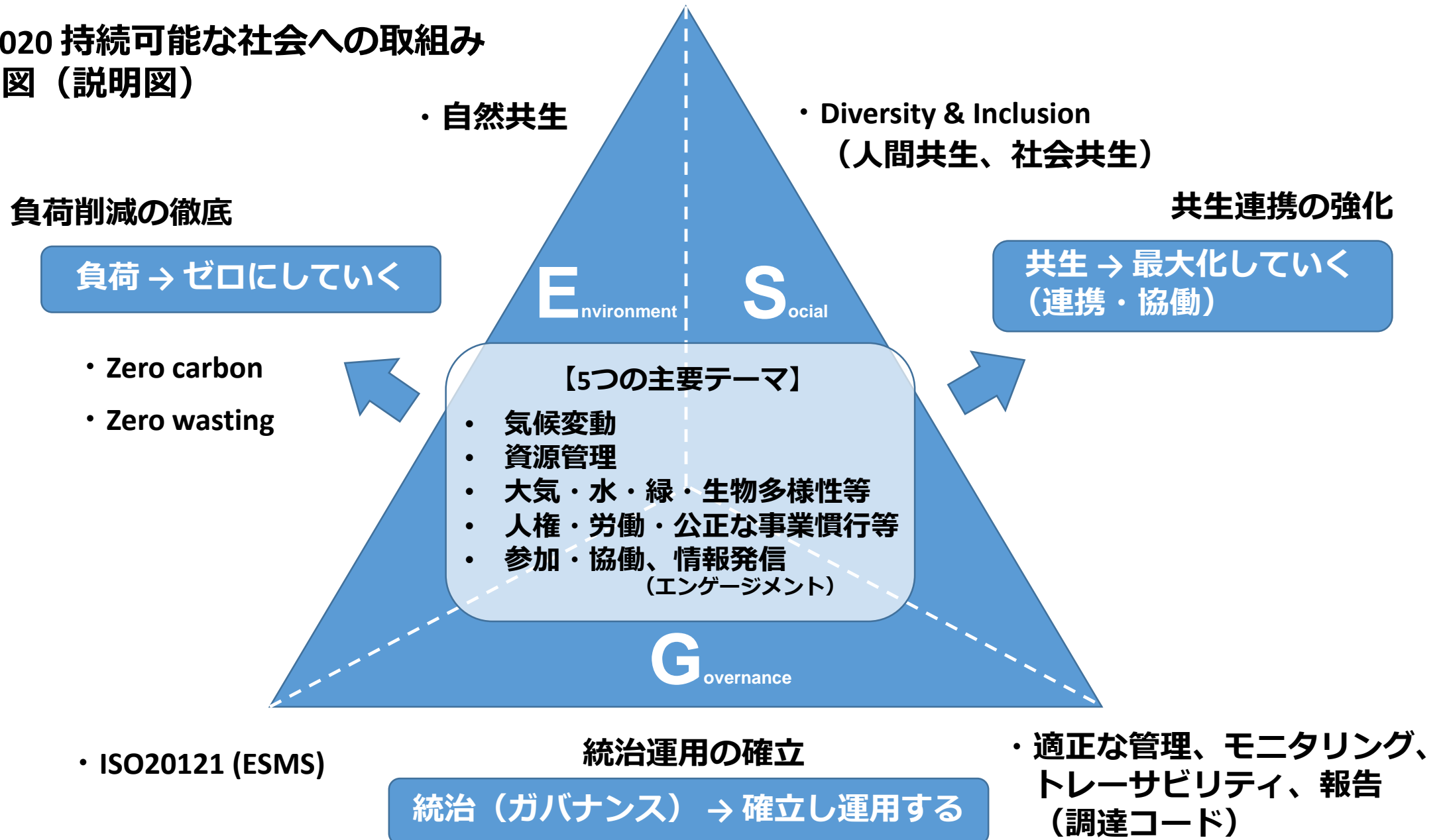
主要テーマ	キーワード	ゴールが目指す持続可能な社会的要素
気候変動	Zero carbon	地球温暖化の進行を止める脱炭素の仕組み・技術・ライフスタイルを有する社会
資源管理	Zero wasting	ムリ・ムダ・ムラをなくし資源を活かしきる仕組み・技術・ライフスタイルを有する社会
大気・水・緑・生物多様性等	自然 <b>共生</b>	自然と人間活動が調和し共生する社会
参加・協働、情報発信（エンゲージメント）	人間 <b>共生</b> （社会 <b>共生</b> ）	多様な人々が生き生きと活躍し、連携・協働の成果（効果）が最大化される社会
人権・労働・公正な事業慣行等への配慮	<b>ガバナンス</b>	持続可能性配慮の統治が確立し、公正な事業慣行が当たり前を実施され維持される社会

上記の各主要テーマのキーワードをまとめて見出し的に表現すると、以下の通りとなる。

東京2020大会  
「2つのゼロ + 2つの共生 & ガバナンス」を掲げ  
人類が希求する持続可能な社会への道筋を示す

# 参考2：キーワード（「2ゼロ+2共生+1ガバナンス」）の体系整理

Tokyo2020 持続可能な社会への取組み  
体系化図（説明図）



# 3. 計画全体の構成

## <計画に盛り込むべき要素>

- 第二版の位置づけ（第一版との整理）
- 1964年大会からの歩み等
- 大会における持続可能性配慮の基本的な考え方
  - ・ 基本の方針（世界の動きを見据えた大会の方向性）
  - ・ 持続可能な開発目標（SDGs）の活用と主要5テーマの取組
  - ・ 計画の適用範囲
  - ・ ISO20121規格に則した持続可能性マネジメントシステム
  - ・ モニタリング体制
  - ・ 計画の実現に向けたツール（調達コード、環境アセスメント）の活用
- 主要テーマごとの目標とそれに向けた施策
- 実施主体別の行動計画・進捗状況
  - ・ 会場整備関係の取組
  - ・ 実施主体（FA）別の取組

# 4. 主要テーマごとの具体的施策

## (1) 気候変動

以下の点について、記述を検討している。

- 1) 気候変動対策のマネジメント(カーボンマネジメント)
- 2) CO<sub>2</sub>排出量の適切な把握（カーボンフットプリントの算定）
- 3) 排出回避策
  - 戦略的な会場計画
  - 施設等における計画段階からの配慮
  - 物品調達時におけるCO<sub>2</sub>削減対策

- 4) 再生可能エネルギーの積極的な導入・利用
- 5) 省エネ等の技術による排出削減
  - 建築物の省エネルギー化
  - 省エネルギー性能の高い設備や機器等の導入促進
  - 徹底的なエネルギー管理の実施
  - 物品・資材の後利用等の循環型利用によるCO<sub>2</sub>負荷削減
  - 環境負荷の少ない輸送の推進
    - ・公共交通機関等の利用促進
    - ・自動車単体対策
    - ・環境負荷の少ない輸送の推進
    - ・道路交通量対策
  - CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス対策
- 6) 対策を講じても発生することが避けられないCO<sub>2</sub>等の相殺（カーボンオフセット）
- 7) その他適応策（暑さ対策）



## (2) 資源管理

以下の点について、記述を検討している。

- 1) 調達物品・資材の、調達から使用後の再使用・再生利用・廃棄処理までの適切な把握
  - ・管理体制の構築
  
- 2) 省資源に配慮した物品等の調達
  - 省資源・廃棄物の発生抑制
    - ・既存施設の活用
    - ・恒久施設の長寿命設計
    - ・物品資材の調達時の配慮
    - ・食品ロス削減
    - ・容器包装の削減
    - ・オリンピックからパラリンピックへの移行の際の資源の効率的な活用

○再生可能資源の活用

- ・木材等の活用

○再生材の活用

- ・建設工事における再生材の利用
- ・大会関係者のユニフォームへのリサイクル素材の活用
- ・水平リサイクル

3) 使用済み物品等の循環的利用及び適正な処分

○再使用・再生利用

- ・建設廃棄物の再生利用
- ・仮施設における資材の再使用(後利用)・再生利用
- ・調達物品等の再使用(後利用)・再生利用の推進
- ・食器のリユース・リサイクル
- ・食品廃棄物の再生利用
- ・大会関係者及び来場者による適切な資源分別
- ・運営時廃棄物の再利用・再生利用

○熱回収・エネルギー回収

○廃棄物の適正処理(上述の発生抑制、リース・レンタル活用等により廃棄を最少化した上で)

○埋立回避（直接最終処分・処理後最終処分）

## (3) 水・大気・緑・生物多様性等

以下の点について、記述を検討している。

### 1) 大気環境・水環境等の向上

- 大会における化学物質・大気・土壌等への配慮
  - ・調達コード及び各種法令等に基づく適切な資材・物品等の使用
  - ・自動車の使用等に伴う大気環境への負荷低減
  - ・建設工事における周辺環境への配慮
- 大会における水循環への配慮
  - ・会場整備における、ろ過施設の導入や雨水等の有効活用
- 都市における高度な水循環の実現に向けた取組
  - ・皇居外苑濠等の水質改善に向けた取組
  - ・東京湾の水質改善に向けた取組

## 2) 生物多様性の確保

- 生物多様性等に配慮した資源の消費
  - ・調達コードによるサプライチェーンにおける生物多様性への配慮
- 競技会場等の緑化
  - ・会場整備における既存樹木への配慮
  - ・周辺環境との調和や緑の連続性を考慮しながら、在来種等計画地に適した樹種による緑地を整備
- 都市における緑地の創出と良好な景観の形成
  - ・公園及び街路樹による水と緑のネットワークの形成
  - ・花と緑の景観形成
  - ・民間による緑の創出
- 都市における自然環境の再生・生物多様性の確保
  - ・都市における公園の生物多様性保全
  - ・生物多様性に配慮した緑化の推進
- 都市における自然とのふれあいの場の創出
  - ・都市の公園における水や緑と触れ合える憩いの空間の創出

## (4) 人権・労働・公正な事業慣行等

以下の点について、記述を検討している。

### 1) 大会に関わる全ての人々に対する人権等の配慮方策

#### ○持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用

- ・「ビジネスと人権に関する指導原則」の考え方を取り入れた調達コードの策定・運用

#### ○ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）戦略の策定等

- ・大会に関わる全てのスタッフに広く、D&I意識が浸透するような取組の推進

#### ○Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドラインの策定等

- ・すべての人々に等しく大会へのアクセスの機会を確保すべく環境整備を図る

#### ○文化・教育プログラムの実施

- ・プログラムの実施により、多様性の尊重や人権配慮への意識の醸成を図る

#### ○大会施設における取組の実施

- ・高齢者、障がい者等が利用しやすい施設の整備、宗教的・文化的に配慮した料理の提供等

## 2) 労働への適正な配慮方策

- 多様で柔軟な働き方の実現に向けた取組の実施
  - ・仕事や生活の状況に応じた多様で柔軟な働き方の実現に向けた取組
- 多様な人材が活躍できる職場環境の整備
  - ・障がい者や海外人材等のスタッフといった多様な人材が力を発揮する環境整備
- 風通しのよい職場環境の実現に向けた取組の実施
  - ・各種研修やスタッフ交流等の機会の提供による職場環境の向上

## 3) 公正な事業慣行等への配慮方策

- 研修を活用した周知徹底
  - ・「公正な事業慣行」を重要テーマの一つと位置付けた研修の実施
- 調達時における配慮
  - ・公正な事業慣行の確保を含む調達コードの策定・運用

## (5) 参画・協働・情報発信

以下の点について、記述を検討している。

### 1) 参加・協働による大会準備・運営の推進

#### ○様々な主体との連携

- ・スポンサーによる持続可能性ネットワークの構築による取組推進

#### ○教育を通じた取組の推進

- ・ボランティア教育や意識向上プログラムの実施

#### ○各主体における具体的活動

- ・「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」や大学連携事業など  
東京2020参画プログラムの実施

### 2) 持続可能性の重要性についての普及啓発（情報発信）の推進

- ・会場、施設における環境技術をはじめとする持続可能性関連の展示やバックヤードツアー、その他大会と並行して開催する様々なビジネスや環境イベント等を通じ、世界各国への技術の展開発信を促進する。



**TOKYO 2020**



**TOKYO 2020**  
PARALYMPIC GAMES





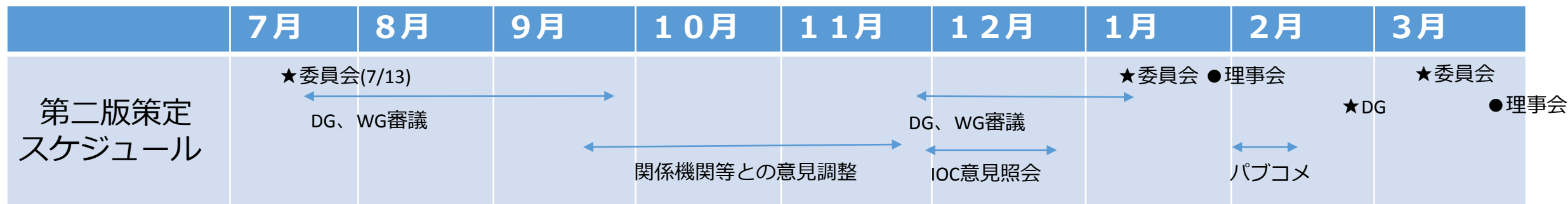
## 運営計画の全体スケジュール（案）

2017年1月 持続可能性に配慮した運営計画（第一版）  
 2018年3月 持続可能性に配慮した運営計画（第二版） 数値目標示す  
 ＊以降、実施状況を毎年数値公表する。  
 2020年春 プレ報告  
 2020年12月 ファイナル報告

【参考：ロンドンのスケジュール】

2008年11月 運営計画（第一版）  
 2009年12月 運営計画（第二版） 数値目標掲載  
 ＊以降、実施状況を毎年数値公表  
 2012年4月 プレ報告  
 2012年12月 ファイナル報告

## 第二版の策定スケジュール（案）



&lt;2017年&gt;

7～9月 委員会審議（目標等の審議）  
 9月中旬～ 関係機関等との意見調整  
 11月下旬～ 委員会審議（計画案の審議） ～12月末まで）  
 11月末～ IOC協議（～12/20まで）

&lt;2018年&gt;

1月末 理事会  
 2月 パブコメ  
 2月末～ 委員会審議（パブコメ踏まえた審議）  
 3月 IOCに提出